



2018年度 大学生ボランティアの活動報告会

3月14日（木）、南大沢キャンパス講堂小ホールにて、活動報告会を開催し、ボランティアセンターの「スポーツボランティアプログラム」「地域ボランティアプログラム」に参加した学生や、学生コーディネーター、登録団体など、合計8団体のボランティア活動に取り組んだ首都大生が一年の成果を発表しました。進行や運営も学生コーディネーターが行い、学生による手づくりの報告会となりました。

活動の目的や内容、学んだこと、課題などについて発表がありましたが、発表の形式なども工夫されており、どの団体も自分たちの言葉で一生懸命話そう様子が印象的でした。また、それぞれ地域の方とつながり、社会課題と向き合う中で、自分自身も学び、成長していることが感じられました。課題や今後の展開についても語られ、現状に満足せず、さら

なるビジョンをもって取り組んでいることが分かりました。会場の参加者からは、各発表に対して、質問・意見が寄せられ、学生の活動への関心の高さが伺えました。連携団体の方やご指導いただいている教員からも温かいコメントをいただき、学生の取組が地域の力になっていることを感じました。発表した団体同士もお互いの活動を知ることができ、刺激となったようです。

【発表団体】

スポーツボランティアプログラム / 地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム / 地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラムと&TMU / ボランティアセンター学生コーディネーター / 釜石ラグビー2019応援プロジェクト / SCOK / 首都大学東京硬式野球部 / 東日本きずなプロジェクト

ボランティアセンター長からのメッセージ

本年度からボランティアセンターのセンター長を拝命した清水です。どうぞ宜しくお願いします。

私は大学院修了後、某電機企業で13年間の技術研究職を経て本学に着任しました。その経験を踏まえて、教育研究の場を通して学生の皆さんのキャリアプラン形成に少しでもお役に立てるように心がけてきました。講義中の話題として、職業選択に向けた心構えや就職後の生活についての経験談をお話する時があります。皆さんの注目が一気に集まることからキャリアプランに関する関心の高さが伺えます。

さて、学生さんの多くは、高等学校までは予め設定された教科を学習することに注力してきたと思います。ところが、大学に入学すると何をどのように学ぶかを自分で考えることが求められることに困惑した人も少なくないと思います。また、自らのキャリアプランを練ることに苦労している人、本学の学びに迷いが生じている人もいます。それは、これまでの限定的な経験の範囲内で思考しているからではないでしょうか？多様な人々との出会いと関わりの中から様々な「気づき」を得ることで自分の世界が広がる可能性が大いにあると思いませんか？

ボランティア活動は自発的に無償で様々な社会貢献事業に参画することですから、直接的に自身の欲求を満たしたり、悩みを直接的に解決できるものではありません。しかし、ボランティア活動によってサポートされる人々の気持ちに接するなかで、自分が求められていることに喜びや自信を得たり、反対に自身の力不足を感じた

りする経験を通して、多様な人生観、価値観、社会観がそこに広がっていることに気づくことでしょう。そのような体験を通してより広い視点から客観的に自分自身を見つめ直し、成長のきっかけを得ることが出来るかも知れません。

ボランティア活動の範囲は、災害地域の復旧・復興支援はもとより身近な地域の市民活動の支援、さらにはオリンピック・パラリンピックのような大規模イベントのサポートまで極めて多様であり、ボランティアとしての関わり方も全く異なります。興味があってもどのように関わるべきか迷われている人、自分は自信がないと思われる人も少なくないと思います。

そのような学生さんのために、本学のボランティアセンターでは、ボランティアプログラムを設定し、経験豊かなボランティアコーディネーターの方々が、ボランティア活動に関する相談はもちろん、実際の参加に先立つ事前学習から、ボランティア活動の選定と参加、参加後の事後学習による振り返りまでを体系的に支援する体制を整えています。ボランティアに興味がありボランティアリーダーを目指したい人はもちろんですが、ボランティアについて知りたい人、自分の社会観・人生観を広げてみたい人など、どのような動機の人でも来室も歓迎しますので、ボランティアセンターの扉を叩いてください。

首都大学東京 副学長
ボランティアセンター長
システムデザイン学部 教授
清水 敏久



活動履歴

【10月】

1) 学生コーディネーター企画 「ボランティア相談室」

10/5～18の平日昼休みにボランティアセンターにて実施。「ボランティアに興味や関心はあるが、実際に行動に移せていない学生の相談に乗る機会をつくりたい」「同じ学生という立場だからこそ相談しやすいこともあるのでは」という想いから企画し、6名の学生に利用していただきました。

2) 地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラム

・10/9 (火)、南大沢キャンパス国際交流会館で開催。学生5名参加 (→詳細)

3) ボランティアセンター講座 「スポーツボランティア2020」

10/18 (木)、25 (木)、27 (土) の3日間、南大沢キャンパスにて開催。本学の教員やパラリンピアン、リオデジャネイロオリンピックでのボランティア経験者を講師に招き、学内外の学生や地域の方58名にご参加いただきました。

【11月】

1) スポーツボランティアプログラム

・11/3 (土) : 「第14回みやこ祭スポーツフェス」学生15名参加
・11/4 (日) : 東京都障害者スポーツ大会「グランドソフトボール」学生6名参加 (→詳細)

2) 地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラム 「サタデーカフェ」

・11/10 (土)、南大沢キャンパス生協食堂で開催。学生7名参加 (→詳細)

3) 地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム

「花炭づくり・木工体験」

・11/11 (日)、松木日向緑地にて、南大沢小学校と柏木小学校の児童と保護者を迎え、実施。学生10名参加 (→詳細)

【12月】

1) 地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム

・12/1 (土) : 竹林整備&バーベキュー 学生9名参加
・12/16 (日) : 里山保全ボランティア体験会 学生9名、中学生4名参加

2) GreenPhoto2018 in Autumn

12/8日 (土)、松木日向緑地にて開催。松木日向緑地で首都大が誇る美しい自然を写真に収めながら、その素晴らしい景色を体感してもらおうと同時に、緑地を歩く際にゴミを拾うことによって環境保護ボランティアについて考えるきっかけをつくらうという企画。今回は、応募のあった6名の首都大生と企画した学生コーディネーター4名に加え、学生課や施設課の職員の方にもご参加いただきました。

3) 1 dayボランティア

ボランティアへのはじめの一步を踏み出してもらうことを目的として、6つの分野の中から希望の活動先を選び、「1日」お試し体験ができる企画です。ボランティアについて学ぶ「事前学習」と振り返りを行う「事後学習」もセットで実施しました。

10/28 : 事前学習

10/29-12/8 : 各種活動

12/9 : 事後学習

スポーツボランティアプログラム



本センター独自のボランティアプログラムの一つ、「スポーツボランティアプログラム」には、今年から参加した1年目の学生19名、継続メンバーである2年目のサポーター5名、3年目のリーダー5名の合計29名が参加しました。

「東京マラソン2019」や知的障がいのある方の運動会である「スポーツの集い」や視覚に障がいのある方が行う「グランドソフトボール」、「車いすバスケットボール」などの競技大会における運営サポートを行ないました。また、学

生たちの自主企画として、スポーツを通じた地域交流企画も実施しました。全活動終了後には事後学習を実施し、活動の振り返りや、活動を通じて考えたこと、学んだことをグループ内で共有しました。

参加学生からは、下記のような感想が聞かれました。

- ・選手のプレーを間近で見て、その凄さ、レベルの高さを感じ、障がい者スポーツに対する考えががらっと変わった。障がい者がバスケットをしているのではなく、車いすバスケットというスポーツとして観てほしい、もっと多くの人に魅力を知ってほしいと思った。
- ・障がい者スポーツを通して選手や参加者と関わることで、障がいのある人を身近に感じるようになった。
- ・今年はスポーツ体験会等、自分たちで企画した取組が多かった。スポーツを通して地域の人と交流できたり、パラスポーツの魅力などを伝えることができたことは良かった。



【東京都障害者スポーツ大会「グランドソフトボール」】

視覚に障がいのある方が行うソフトボールのような競技で、打席ごとに打者の名前や、選手交代、攻守交代をアナウンスしている様子。



【日野キャンパス「パラスポーツ交流会」】

日野キャンパスと地域とのつながりづくりを目的に、近隣の障がい者施設の方を招き、学生たちが「パラスポーツ交流会」を企画。道具を工夫して行った「ポッチャ」。

地域ボランティアプログラム①～松木日向緑地プログラム～



「地域ボランティアプログラム」の「松木日向緑地プログラム」も後期から本格的に始動しました。本学南大沢キャンパス内にある松木日向緑地をフィールドとして、多世代による里山保全と利活用を通して豊かなコミュニティを形成することを目標としているこのプログラムには、1年目の学生14名、昨年からの継続メンバーである2年目のサポーター2名、3年目のリーダー3名の合計19名が参加しました。理学部生命科学科/牧野標本館の加藤英寿先生や地域の森林ボランティア団体である「ひなた緑地遊学会」の方々のご協力を得て、竹の間伐など竹林整備を行いました。また、自分達だけが活動するだけでなく、地元の小学生や中学生を招いて、竹林整備の体験会や花炭づくり・木工体験会を行ったり、他の首都大生にも竹林整備を体験してもらった上で、松木日向緑地をより良くするためのワークショップなどを行ったりしました。

全活動終了後には事後学習を実施し、活動の振り返りや、活動を通じて考えたこと、学んだことを共有しました。1年間の活動の成果として、下記のような意見が出ました。

【環境保全の面からの成果】

- ・竹林の整備により、以前と比べ緑地に陽が入るようになった
- ・自分たちが伐採した竹で竹炭作りや工作をし、資源の利活用に役立てることができた

【つながりの面からの成果】

- ・日向緑地遊学会から適切な伐採方法を学ぶ
 - ・学んだ技術で地元の小学生や中学生と交流
 - ・三世代に渡る伝統技術の継承の土台を形成することができた
- ⇒自然の中で多世代交流ができる「豊かなコミュニティの形成」につながる



炭焼き窯に火入れをしている様子

地域ボランティアプログラム②～みなみおおさまカフェプログラム～



毎月1回程度、南大沢キャンパス内で開催されている「みなみおおさまカフェ」の企画や準備、当日の運営を行う本プログラムには、10名の学生が参加しました。コミュニティカフェ「みなみおおさまカフェ」は、社会的孤立の防止や地域のつながりをつくることを目的として、地域の多様な団体と協働で運営しています。

内容の企画やゲストの調整、会場設営やコーヒーマシーンを淹めたり、一緒にお話をしたりするなど、事前の企画から当日の準備・運営までを学生たちが地域の団体の方々や協力しながら行います。また、プログラムの学生以外にも音楽の演奏やジャグリングの披露をしたり、様々な形で首都大生が関わっています。

毎回60～70名ぐらいの地域の方が参加してくださり、学生と会話を楽しんだり、ときには学生の演技などを見て、涙を流して感動される場面もありました。



参加した学生からは、下記のような感想が聞かれました。

- ・私が話したことから、その方が若い頃を思い出して、微笑む姿が印象的で、自分から話が広がっていく感覚、会話を楽しめて、パワーをもらえた。
- ・2回目に会ったときに、覚えていてくださったことが嬉しかった。
- ・戦争のことを教えていただいた時があり、その話を通して改めて当たり前の大切さや感謝の気持ちの大切さを実感した。
- ・様々な方々と出会い、自分がこれからどのように生きていきたいかについて考えることができた。

地域の方々が集うカフェは、学生にとっても大切な居場所となっているようで、温かい時間が流れています。

4) 地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラム

・12/11(火)、南大沢キャンパス国際交流会館で開催。学生4名参加(←詳細)

5) 学生コーディネーター企画 「つなぐTOKYO2020」

11/30～12/21の昼休みに南大沢キャンパスにて開催(全4回)。東京2020大会に関連づけて、ボランティアやダイバーシティについて議論を深めました。

【1月】

1) 地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム 「竹林整備」

・1/12(土)、松木日向緑地にて実施。学生6名参加(←詳細)

2) 釜石ラグビー2019応援プロジェクト 「第2回 ワークショップ」

1/19(土)、本プロジェクトの「第2回ワークショップ」を実施し、12名の学生がラグビーワールドカップを釜石で開催することの意義や首都大生が釜石で活動することの意義について考えました。

3) スポーツボランティアプログラム 東京都障害者スポーツ大会 「車椅子バスケットボール」

1/20(日)、武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された上記大会に15名の学生が参加。テーブルオフィシャルや競技補助員として活動しました。(←詳細)

【2月】

1) 第5回大学生ボランティア活動報告会&イベント～被災地と多摩地域の架け橋「大学生はなぜ、被災地に通い続けるのか？」

2/6(水)～10(日)、イオンモール多摩平の森にて開催され、「パネル展」や「物産展」、「防災ワークショップ」、「PR動画プロジェクト 動画上映会&トークセッション」が行われました。本学からは「東日本きずなプロジェクト」が参加。

2) 地域ボランティアプログラム② みなみおおさまカフェプログラム 「通常カフェ&事後学習」

・2/12(火)開催。学生3名参加(←詳細)

3) 地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム

・2/15(金):竹林整備&事後学習を開催。学生9名参加
・2/22(金):「里山保全ボランティア体験会」開催。首都大生3名、教員1名の参加に加え、プログラムの学生5名が参加

4) スポーツボランティアプログラム 日野キャンパス「パラスポーツ交流会」

・2/19(火):日野キャンパス体育館にて開催。近隣の障がい者施設の利用者17名と学生10名が参加

【3月】

1) スポーツボランティアプログラム

・3/1(金):「事後学習」実施
・3/3(日):「東京マラソン2019」に参加

2) 大学生ボランティアの活動報告会 (←詳細は表紙を参照)

3) 釜石ラグビー2019応援プロジェクト 「ラグビー体験会」(←詳細)

首都大学東京×スクラム釜石 釜石ラグビー2019応援プロジェクト



3月23日(土)、首都大学東京体育会ラグビー部(以下、ラグビー部)にご協力いただき、首都大ラグビーパーク「ラグビー体験会」を本学の多目的球技場にて開催しました。

ラグビー部の学生の多くは、ラグビーワールドカップ2019(以下、RWC2019)の釜石開催に向けた【釜石ラグビー2019応援プロジェクト】に所属しています。今回は、このプロジェクトに参加しているラグビー経験のない学生の「実際にラグビーを体験してみたい!」という思いがカタチとなり、ラグビー部の学生による体験会が実現しました。

当日は、小雨が舞う状態でしたが、それでも、プロジェクトに参加しているラグビー経験のない学生やホームページを見て応募して下さった都立大OBの方等にご参加いただきました。

パスやタックルなど基本的な動きを一通り体験した後、ゲーム形式でラグビーを体

験しました。子どもたちも一緒に参加し、ラグビーボールを楽しそうに抱えて走る様子が印象的でした。

今回、ラグビーの基本的な動きを体験することで、その楽しさや難しさ、さらに、選手の凄さを改めて実感することができました。

参加者から、「体験を通して、ラグビーワールドカップがより楽しみになった」といった感想が聞かれる等、【釜石ラグビー2019応援プロジェクト】としてのRWC2019の機運向上に貢献できたのではないかと思います。



新たな学生コーディネーター紹介

～4月から、新しい学生コーディネーターが4名加わり12名体制になりました！～

首都大学東京ボランティアセンターは、教職員に加えて、学生も「学生コーディネーター」として運営に参画しています。学生目線からのボランティアの啓発・促進を目的に、ボランティアを希望する学生の相談に乗ったり、啓発のためのイベントを企画したりしています。

ぜひ、お気軽に学生コーディネーターに会いに来てください。

ボランティア募集情報

※いずれも詳細は首都大学東京ボランティアセンターまで

「第8回調布テンケーマラソン」の運営サポート

公園イベントのサポート

【主催：調布テンケーマラソン事務局（一般財団法人アスリートスマイル）】

【主催：小山内裏公園パークセンター】

活動日時：10/27（日） 7：30～13：00

活動日時：①10/12、11/9、12/14（いずれも土曜日）
12：40～14：40

場 所：武蔵野の森公園（西武多摩川線「多磨駅」徒歩5分）

②毎日9：30～17：00の内2時間

活動内容：一緒に大会を盛り上げてくれる方を募集中！

場 所：小山内裏公園

- ・ランナー参加受付…ランナーへ参加賞の配布
- ・給水…給水所の設置、ランナーへドリンクの提供
- ・走路誘導…コース上での安全確保、ランナーの進路誘導、折り返し地点 誘導
- ・その他

（京王相模原線「多摩境」下車徒歩10分
「南大沢」から京王バス 南大沢五丁目循環「南大沢学園前」下車徒歩1分）

活動内容：①ガイドウォーク…参加者安全管理補助

②園内維持管理作業…花壇除草、植栽、灌水など

ボランティアセンターからのお知らせ

東京オリンピック・パラリンピック競技大会「アスリートサポートプログラム」参加者募集

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による「アスリートサポートプログラム ～アスリートの家族・友人の大会経験の支援～」において、首都大学東京の国際交流会館に滞在するアスリートの家族や友人をサポートし、大会を通じた国際交流に協力していただける学生のみなさんを募集します。

◆運営主体：

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（アスリートサポートプログラム担当）

◆活動内容：

- ・オリンピック・パラリンピックに出場予定の選手の家族・友人の空港や駅での出迎えや見送り
- ・利用する施設に関する案内や説明を通じたコミュニケーションサポートほか

◆活動期間：

2020年7月21日（火）～9月9日（水）のうち、最大3日間

◆対象者：2020年度に本学在学の大学院生・大学生

◆応募締切：2019年10月21日（月）

◆募集人数：最大20名 ※先着順により、締切

※詳細や申込方法は、ボランティアセンターのホームページをご覧ください。

7月1日より、ボランティアセンターのホームページが新しくなりました。

リニューアルにともない、URLが変更になりました。

お手数ですが「お気に入り」、「ブックマーク」等に登録されている方は変更をお願いいたします。

<https://volunteer.tmu.ac.jp>



首都大学東京ボランティアセンター

WEBSITE
RENEWAL
7.1 (MON) ~



<https://volunteer.tmu.ac.jp>

ウェブサイト リニューアル

<編集後記>

2018年度後期総編集の今号ですが、ずいぶん発行が遅れてしまいました。申し訳ありません。こうやって振り返ると、こんなにも多くの活動が展開できたことに驚くとともに、多くの方々に支えていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。報告をご覧いただければ分かる通り、2018年度はこれまでに以上に学生による新たな自主企画が多く生まれました。決まった活動に参加するだけでなく、その中で社会課題と向き合い、自分に何が出来るかを考えて活動を創り出すこと、これがボランティア活動の重要な点であり、醍醐味だと思っています。先輩から後輩へとそういった想いが引き継がれ、積み重ねがなされている成果だと思っています。

4年目に突入したボランティアセンターを、今後ともよろしくをお願いいたします。

<編集・発行>

首都大学東京ボランティアセンター
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 1号館1階
電話：042-677-1354（直通）／内線2260
FAX：042-677-1812／内線2249
E-mail：tmu-volunteer@jmi.tmu.ac.jp
URL：https://volunteer.tmu.ac.jp
Twitter：@tmu_volunteer
Facebook：「首都大学東京ボランティアセンター」で検索！
発行日：2019年 8月

